

市町村職員自主研究グループ支援事業

H a p p i N e s t

都農町自主研修グループ

事業名：HappiNest 幸せの巣 (Happiness 幸せ × Nest 巣)

1. 【グループの概要】

都農町の若手職員で令和5年度より若手職員自主研修グループを立ち上げ、職員個々の政策形成能力の向上、横断的な取組みを促進しグループでの連携能力向上や組織の活性化を目的に活動している。

今回、自主研究グループにおいて、「子育て環境整備」を題材とし、上記事業を実施することとなった。

2. 【事業の目的、ねらい】

本町は約1万人の町であり、高齢化率が「39.7%」と65歳以上の高齢者が4割を占めている状況である。人口の半数が高齢者であり、本町としては「高齢者のための施策」が重要視され、実際に様々な施策が打たれている。一方でその方々を支えていくのは私たち「現役世代」であり、子供たちである。現役世代が住みやすく幸せに暮らせるまちを目指し、子育て世代の幸福度を向上させ、高齢者をみんなで支え幸せに暮らすことができれば都農町全体が幸福になると考え「子育て環境の整備」について政策提案を行った。

3. 【活動内容】

市町村職員自主研究グループでの当初の事業計画では、次の3つの取組みを実施することとし、活動を開始した。

(1) オンライン広報セミナー

一般社団法人日本経営協会実施の「伝わる広報誌の作り方からSNS・動画・デザインまで」を受講し、本町子育て情報の発信はもとより、職員個人の情報発信力向上を目指す。

(2) 親子イベント

マスメディアや町内関係団体と連携した未就学児向け親子イベントを実施し、子育て世代の交流機会の創出、定期イベントのニーズの把握を行う。※ワークショップ型親子教室イベント

(3) 親子教室の実証実験

子育てアプリの導入、活用を促進するため、子育て世代包括支援センターにおける運動教室等の充実を図り、子育て世代の交流機会の創出や定期イベントのニーズを把握する。

以上のうち、当初 11 月に実証実験として計画していた（３）親子教室について、本町の関係機関や運動教室等の講師との調整に時間を要し、12 月末までの事業実施の見通しが立たなくなったため、同内容を（２）親子イベントに組み込み実施した。

また、（１）オンライン広報セミナーについては、広報の目的等、基礎的な手法や注意点を学ぶことが目的であった。研修で学んだことを実践するため、SNS 等を活用した広報に必要な動画作成術を学び、運用を実践することを目標に、本研修を受講後同協会実施の「公務員の動画作成術」を本町予算にて受講した（以下、「（１）広報セミナーとする」）。

実施内容については、下記のとおりである。

（１）広報セミナー

①「伝わる広報誌の作り方から SNS・動画・デザインまで」

【概要】

日時：令和 5 年 11 月 2 日（木）10：00～16：30

場所：都農町役場新館一階小会議室 オンライン受講

講師：PRDESIGN JAPAN株式会社 代表取締役 佐久間 智之 氏

【研修内容】

元公務員であり秘書広報室でスキルを習得し、「全国広報コンクール」で内閣総理大臣賞を受賞し、自治体広報日本一に導いた経験のある官公庁の広報アドバイザーの佐久間智之氏が講師を務める日本経営協会主催の研修に参加した。

広報誌デザインのルールから、企画づくり、写真撮影、お知らせ情報を効率的に作るコツ、様々な媒体との連携など幅広く学ぶ。

上記研修では、公務員の広報の本来の目的、表紙レイアウトの見せ方、伝わる文章の構成や写真の撮り方など広報を行う上での注意事項をより実務と照らし合わせながら学ぶことができた。

②「公務員の動画作成術」

【概要】

日時：令和 5 年 12 月 4 日（月）10：00～16：30

場所：東京都渋谷区千駄ヶ谷 3-11-8

日本経営協会内専用教室

講師：PRDESIGN JAPAN株式会社 代表取締役 佐久間 智之 氏

【研修内容】

前記①の研修で、自治体職員における広報の目的や作成スケジュールや公平性の保ち方を学んだ。今回の研修は、専用ソフトを活用した研修ではなく、行政が使用しているパソコンに標準装備されているパワーポイント等を活用して行える動画編集スキルや行政目線の実務的な研修である。

動画編集など情報発信は広報担当の仕事だと他人事に思うのではなく、どの部署でも動画を作り住民に対して誰一人取り残しのない情報を簡潔に伝えることのできる方法を学んだ。

(2) 親子イベント（「(3) 親子教室の実証実験」を含む）

「おやこフェスタ TSUNOHANA」

【概要】

日時：令和5年12月17日（日）9：00～12：30

場所：旧都農高校

【目的】

「子育て環境の整備」を掲げ、本町の既存事業である親子教室やイベント等を含めた町全体の子育て環境についてのニーズ把握、及び、子育て世代交流の機会創出を目的としてイベントを開催する。なお、本町の健康管理センターが運営する「子育て世代地域包括支援センター」も出張ブースとして設置し、子育て関連政策や活動周知も兼ねる。

【イベント内容】

旧都農高校にて町内外の未就学児のいる子育て世代を対象に、ワークショップや親子で体験できるブース等を設置し親子で楽しめる空間を生み出す。

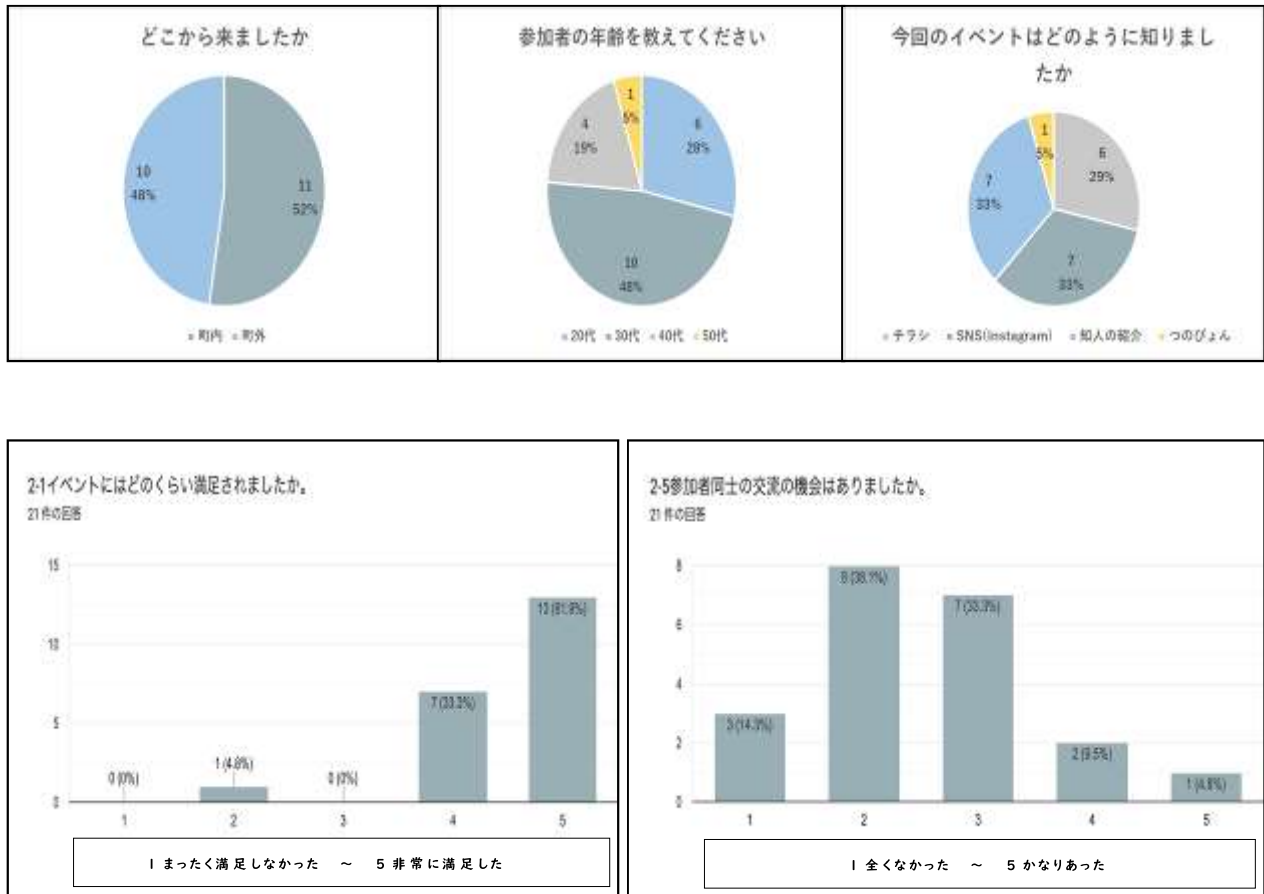
授乳室・おむつ交換室、キッズスペースと隣接して「子育て相談ルーム」を設置し、普段から抱えている悩みや気になることなどを気軽に相談できる場所を提供し、よりリアルな声を拾うようにする。

	ブース名	内容
1	ベビーマッサージ	1ヶ月検診後～歩き出す前の赤ちゃんを対象にベビーマッサージの実践講義
2	アナウンサー 読み聞かせ	MRTアナウンサーによる読み聞かせ
3	体操教室	マット運動や鉄棒等の体験教室
4	親子ヨガ	親子で共に楽しめるヨガ体験教室
5	キッズネイル アロマスライム バスボムづくり	子どもでも安心して使用できるネイル体験 自分好みの香りと色でのスライムとバスボム を作るワークショップ
6	木工ワーク ショップ	木製フォトフレームへ飾付をし、オリジナルの フォトフレームを作るワークショップ プロのカメラマンが撮影した写真付
7	和太鼓教室	和太鼓を実際に叩ける体験教室
8	働く車展覧会	警察：パトカー、白バイ 消防：消防車、救急車
9	駄菓子販売	町内事業者による駄菓子販売
10	コーヒー販売	地域おこし協力隊員による来場者向けにコー ヒー販売
11	キッチンカー	町内事業者と町外事業者による、小さい子ども でも食べられるフードを販売
12	子育て相談室 キッズスペース	子どもと休憩できる空間と子育てに関する悩 みなどの気軽に相談ができる環境
13	ダンスショー	つのぴょんとみやざき犬によるダンスショー

【親子イベントでのアンケートについて】

イベント来場者に対し、QRコードを配布して Google フォームでのアンケート調査を行った。※回答者 21 名

以下、主なアンケート集計表、及び、結果



- 参加者のうちチラシや SNS でイベント開催の情報を知った方が半数以上を占めた
- イベント開催に対する満足度は高かった
- 廃校となった都農高校跡地でのイベント開催を喜ぶ声やイベントの継続開催を望む声も多数寄せられた
- アンケート回答者が少なく、会場での周知等の改善が必要
- イベントの開始時間やブースによっては混雑した際に受付等の整理が不十分であった
- 会場内での子育て世代同士の交流機会の創出を目的としていたが、結果として交流機会が少ないとの回答が多く十分な仕組みづくりができていなかった



4. 【事業の成果、効果】

(1) 広報セミナー

【成果①】

親子イベントの周知や今後の自主研究グループ活動の宣伝を目的にInstagramアカウントを開設し、11月2日（木）および12月4日（月）に受講した研修で学んだ内容を実践して、ショート動画や投稿を継続して行った。

【効果①】

12月8日（金）に初投稿を行い、12月17日（日）の親子イベント終了後（約1週間後）には110人を超えるフォロワーを獲得することができた。

Instagramを見てイベントに来られた方もおり、子育て世代（20代から30代）へ向けた情報発信にはInstagramでの情報発信が有効であり必須であることが分かった。

参考：TSUNOHANA Instagramアカウント URL

https://instagram.com/tsunohana_6/



(2) 親子教室の実証実験「おやこフェスタ TSUNOHANA」

【成果②】

体験教室の選定について、0歳から6歳までの全ての年代の子ども達が参加でき、楽しめるようにバランスよくブースを配置できた。

【効果②】

乳幼児から未就学児まで様々な年代の子ども達に参加していただくことができた。

特に、未就学児に対するワークショップ型イベントの開催は、とても好評であり、今後も継続してほしいとの声もいただいた。

【成果③】

親子教室の実証実験も兼ねて、今後の親子教室の内容や種類を把握するために様々なジャンルのブースを設けることができた。

【効果③】

体を動かすことや手で触って体験する教室、読み聞かせ教室が人気であった。これらに関連する教室に対して子育て世代からの需要があることから、本町の事業である親子教室の内容の参考にし、より充実した教室にしていく。

【成果④】

健康管理センターと連携して助産師と保健師を招き、子育て相談ができる「子育て世代包括支援センター」を設置。

【効果④】

アンケートにおいて、「子育て世代包括支援センター」を認知していないと回答した町内参加者に対し、子育て相談できる場所があることを知っていただく機会となった。

5. 【まとめ】

親子教室の充実化については、親子イベントを実施したことにより、多くのニーズを把握することができた。アンケート調査の結果、イベントの満足度が高かったことや、定期開催の要望、改善点等を把握でき、これからの都農町の子育て環境整備において必要なデータが蓄積されたと考える。また、情報発信においても、学んだ内容を親子イベントのSNS(Instagram)にて動画を作成し周知したことにより、フォロワーの獲得につながった。子育て世代へ情報を届けるために、Instagramの活用は有効であることが考察できた。

今後、イベントでの反省点や、引き続きアプリ導入に関する協議を進めるためにも、私たち若手職員は、一度限りでなく継続的に考え、行動し、政策提案を実践することで、都農町全体の幸福度向上に向けた取り組みを組織全体に広げ、促進していくことを目指す。